

# イラク戦争の大義

相馬敦 宇都宮大学国際学部国際社会学科 1年

## 1、 イラク戦争の契機。

9・11の同時多発テロの発生により“タリバン政権打倒、アルカイダ撲滅”を掲げアフガン侵攻を行ったアメリカが

- ・イラクは9・11を起こしたテログループとつながりがある。
- ・イラクは大量破壊兵器（サリン、VXガス等）を有している中東の脅威である。

としてイラクの調査を求めた。それを受けて国連の査察団がイラクに送られたが、イラクは調査に協力的とは言えず大量破壊兵器の存在を確かめる事ができなかった。イラクが大量破壊兵器を破棄しなければ武力行使も辞さない構えをとるアメリカにフランス、ドイツは査察を継続するべきだ。という姿勢をとりつづけたがアメリカは国連の議決を待たずにイギリスと協力し2003年3月19日イラクに空爆を開始する。

アメリカは開戦後「大量破壊兵器を有し、テロの温床となっているイラクを倒す正義の戦争である。」とし。小泉総理は「テロ撲滅の為の侵攻であり日本はこれを支持する。」として「単なる侵略ではないか？」という国際世論がある中でアメリカを支持した。政権発足当時から「アメリカに協力できることはなんでもする。」としてきた小泉首相は“イラク戦争には大義がある”としてアメリカに賛同する姿勢をとったのだ。

\*だが私には気に入らない事がある。アメリカは軍事大国だと言うことは世界共通の認識だろう、〔世界の軍事費の50%近く、約4000億ドル(日本円で50兆円位か?)もの予算をつぎこんでいるらしい。〕世界一の軍事力を持つアメリカがたかだか中東の一国相手にそこまでムキになる必要があるのだろうか？当然アメリカは生物兵器や毒ガスなどの技術は他国より優れているに決まっている、なのに他国が生物兵器や毒ガスを持つ事にはこれほどにも敏感に反応するのである。確かにイラクなどが当時アメリカの言っていた通り悪の枢軸だとしたら、そこに大量破壊兵器などがあってはアメリカにとってだけではなく世界的にも危険が及んだかもしれない。だが、アメリカの姿勢が「自国の強大な軍事力は認めても他国がその力を得るのをよしとはしない」という様に私には見えるのである。

## 2、 イラク戦争の経過

2003年 3月20日 開戦。バグダッド空爆。内部情報からフセイン大統領などイラク指導部を狙った局地的な攻撃が行われる。

3月21日 地上戦開始。イラク南部へ侵攻。

3月26日 クルド人自治区に米軍空挺部隊が降下し、空港を占拠。

4月5日 バグダッド侵攻。

4月7日 バグダッド中心部制圧、大統領宮殿占拠。

4月9日 バグダッド陥落、サダム・フセイン像倒壊。

4月14日 イラク全土制圧完了。

5月1日 ブッシュ大統領イラク戦争終結宣言。

これを見て分かるように実質戦争と呼べるものは2ヶ月続いていない。アメリカは劣化ウラン弾、クラスター爆弾を使用し圧倒的な戦力でイラクを統治、制圧した。だが、この戦争中に見つかると思われた肝心の大量破壊兵器を発見することは出来ず。戦争当初のアメリカの目的であった“テロ撲滅のための戦争”という大義は“サダム独裁政権からイラク国民を自由にするため”の戦争だったと変わっていった。この時小泉政権はやはり「イラク戦争はイラク国民の自由のための戦争、この戦争が間違っていたとは思わない。」としてアメリカを支持し、自衛隊をイラクに派遣することを決める。

\* この戦争は“テロ撲滅のための戦争”ではなかったのだろうか？私は態度をコロコロ変える人間は嫌いだ、それ以上にこのアメリカや日本政府の態度には我慢のならない物がある。それは、イラク戦争によって死んだ人は「テロ撲滅のため」アメリカが仕掛けた戦争により死んだのではなく「自由のためのいしずえ」となって死んだのだ、と美化されてしまうからだ。当然この解釈はアメリカ側の一方的な押し売りである。アメリカのそのような主張の一体どこに大義があるのだろうか。それとどうしても腑に落ちないのは戦争期間の短さである。2ヶ月で制圧できるような国にアメリカは何の脅威を抱いていたのだろうか、劣化ウラン弾やクラスター爆弾などの兵器の数々をニュースで見て、私はタリバン政権を倒したアフガン戦争の時のバンカーバスターやデイジーカッターを見た時と同じ印象を持ち、イラクはアメリカの兵器実験上に見えた。

戦争から一年たった2004年5月にバグダッド近郊でサリン入りの砲弾が見つかった。イラクの大量破壊兵器保持の裏付けとなるかと思われたが砲弾は湾岸戦争の頃のものだと判明し大量破壊兵器保持の証拠とはならなかった。その上現在ではアメリカも戦争以前に入手していた『イラクが大量破壊兵器を保持している』という情報はデマだった。という見解を示しているし、イギリスのブレア首相も「我々はイラクに大量破壊兵器が存在していたことは知っていたが、現在それらを見つけ出すことは出来ないだろう。」と言っている。

\* イラク戦争の大義は(テロ撲滅、大量破壊兵器の破棄 イラク人の自由のため) と移り変わって

きた。アルカイダとイラクの関係の証拠は無い、大量破壊兵器は見つからない、イラク人のため  
と言いながらイラク情勢を悪化させてしまった今、戦争の大義はどこへ行ったのだろうか。世界  
規模でのイラク反戦運動やイラクの惨状を受けてアメリカの世論も『イラク戦争は間違いだっ  
た。』という意見が過半数を超えた。この戦争は何のために、そして誰のための戦争だったのだ  
ろう。